

八幡製鉄所「S式炉日誌」の紹介（一）

松下, 志朗
九州大学経済学部

<https://doi.org/10.15017/13563>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 2, pp.70-78, 1973-12-10. エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：

八幡製鉄所「S式炉日誌」の紹介(一)

松下志朗

官営八幡製鉄所が日本で始めての鉄鋼一貫作業方式を採用したとき、その基幹部分はいまでもなく製鉄部門であり、製鉄の成否を決定する最大の要素の一つが燃料コークスであった。

しかし、創業期における経営者の不見識から、コークス製造工場を製鉄作業の開始後に整備はじめ、規設部門にコークス製造工場の予算まで流用してしまっていたことや、製鉄所所屬二瀬炭山の原料炭に適した設計のコークス炉建設に重点を置いたため、主原料炭と粘結炭の配合、洗炭、搗固め等の予備作業の重要性を見落すなどの誤りをおかしてしまったという。

明治三十四年築造を開始したビーハイブ炉四六〇基の粗雑さは、製鉄事業調査会の指摘するところとなり、明治三十六年度にはコップー炉、ハルデー炉の採用となるが、八幡製鉄所のコークス工場の指導性を確立させ得たのは、明治三十九年度に作業を開始したソルベー炉の導入である。

それは、海軍用ピッチやタール油等の副産物をも捕集して製鉄作業を軌道にのせるが、それと同時にその生産費をも減少せしめて、八幡製鉄所の経営は著しく経済性を増してくるのである。(『日本近代製鉄技術発達史』参照)

以下収める資料は、新日鉄八幡製鉄所所蔵に係わる「S式炉日誌」より、燃料搬入開始前後迄は原文を忠実に複製し(資料1)、搬入開始後はその数量の表示と若干の参考記事を挙げたものである(資料2)。

料2)。

なお、資料1の複製にあたっては、印刷の都合上当て字に改めまた読み易いように読点、並列点を加えた。

資料1 (表紙)

<p>S式炉 日誌</p> <p>明治三十九年十一月二十日以降 明治四十年五月三十一日迄</p> <p>散炭工場</p>
--

	第一S式	第二S式	第三S式	第四S式
風道干線着 手同 使用燃料数	39年11月28日	39年10月28日	40年1月5日	
風道干線 着手同 使用燃料数	同年12月14日	39年12月16日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年1月27日	40年2月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月14日	40年2月16日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月21日	40年2月23日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月28日	40年2月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月5日	40年3月7日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月10日	40年3月12日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月15日	40年3月17日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月20日	40年3月22日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月25日	40年3月27日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月30日	40年3月31日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月4日	40年4月6日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月9日	40年4月11日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月14日	40年4月16日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月19日	40年4月21日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月24日	40年4月26日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月29日	40年4月31日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月4日	40年5月6日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月9日	40年5月11日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月14日	40年5月16日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月19日	40年5月21日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月24日	40年5月26日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月29日	40年5月31日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月3日	40年6月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月8日	40年6月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月13日	40年6月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月18日	40年6月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月23日	40年6月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月28日	40年6月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月3日	40年7月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月8日	40年7月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月13日	40年7月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月18日	40年7月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月23日	40年7月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月28日	40年7月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月2日	40年8月4日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月7日	40年8月9日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月12日	40年8月14日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月17日	40年8月19日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月22日	40年8月24日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月27日	40年8月29日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月31日	40年9月2日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月6日	40年9月8日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月11日	40年9月13日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月16日	40年9月18日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月21日	40年9月23日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月26日	40年9月28日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月30日	40年10月2日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月6日	40年10月8日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月11日	40年10月13日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月16日	40年10月18日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月21日	40年10月23日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月26日	40年10月28日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月31日	40年11月2日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月5日	40年11月7日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月10日	40年11月12日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月15日	40年11月17日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月20日	40年11月22日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月25日	40年11月27日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月30日	40年12月2日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月5日	40年12月7日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月10日	40年12月12日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月15日	40年12月17日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月20日	40年12月22日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月25日	40年12月27日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月30日	40年1月1日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年1月3日	40年1月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年1月8日	40年1月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年1月13日	40年1月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年1月18日	40年1月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年1月23日	40年1月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年1月28日	40年1月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月2日	40年2月4日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月7日	40年2月9日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月12日	40年2月14日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月17日	40年2月19日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月22日	40年2月24日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年2月27日	40年2月29日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月3日	40年3月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月8日	40年3月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月13日	40年3月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月18日	40年3月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月23日	40年3月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月28日	40年3月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年3月31日	40年4月2日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月4日	40年4月6日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月9日	40年4月11日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月14日	40年4月16日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月19日	40年4月21日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月24日	40年4月26日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年4月29日	40年4月31日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月4日	40年5月6日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月9日	40年5月11日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月14日	40年5月16日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月19日	40年5月21日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月24日	40年5月26日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年5月29日	40年5月31日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月3日	40年6月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月8日	40年6月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月13日	40年6月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月18日	40年6月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月23日	40年6月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年6月28日	40年6月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月3日	40年7月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月8日	40年7月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月13日	40年7月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月18日	40年7月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月23日	40年7月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月28日	40年7月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年7月31日	40年8月2日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月4日	40年8月6日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月9日	40年8月11日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月14日	40年8月16日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月19日	40年8月21日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月24日	40年8月26日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年8月29日	40年8月31日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月3日	40年9月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月8日	40年9月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月13日	40年9月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月18日	40年9月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月23日	40年9月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年9月28日	40年9月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月3日	40年10月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月8日	40年10月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月13日	40年10月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月18日	40年10月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月23日	40年10月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月28日	40年10月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年10月31日	40年11月2日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月5日	40年11月7日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月10日	40年11月12日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月15日	40年11月17日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月20日	40年11月22日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月25日	40年11月27日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年11月30日	40年12月2日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月3日	40年12月5日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月8日	40年12月10日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月13日	40年12月15日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月18日	40年12月20日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月23日	40年12月25日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月28日	40年12月30日	40年3月8日	
同 使用燃料数	40年12月31日	40年1月1日	40年3月8日	

(表紙裏) ※漢数字は洋数字に代えた

明治三十九年十一月二十日 昼雨

一、本日ヨリ大坂舎密会社ヨリ傭聘セシ職工大木辰之助並ニ骸炭職四名ヲ以テ、ソルベー式骸炭炉乾燥準備トシテ、第一号ノ風道内ニ在ル溜水ヲ浚ヘサシム、

十一月二十一日 昼曇

一、本日ハ大木外六名ヲ以テ、第二号ソルベー式炉ノ風道内溜水ヲ浚ヘ了ル、

十一月廿二日 昼曇

一、本日ハ大木外六名ニテ、第一号風道内支線ノ塵芥及泥土ヲ掃除ス、

十一月廿三日 昼曇

一、本日ハ第二号ノ風道内支線ノ塵芥・泥土ヲ掃除ス、是ニテ第一・第二トモ風道内ノ全部掃除ヲ了ユ、

十一月廿四日 曇

一、本日第一号風道内北口ノ乾燥火焚口煉瓦積ニ着手ス、
一、本日修築科ヨリ安母尼亞工場へ転勤スヘキ職工十四名ノ内、首藤・大津・阪本ノ三名決定セリ、

一、本日空気函ノ蓋及内部断板ノ開閉工合ヲ試ミシニ、往々充分開閉セサルモノアルヲ以テ、修築ノ創立係ニ手入ヲナサシム、

十一月廿五日 昼曇

一、本日第一号風道南口、第二号風道南北両口ノ火焚口煉瓦積ヲナサシム、第二号ノ南口ハ少シク後レテ積ミ始メシ故、中尾煉瓦工ヲ居残ラシメテ、翌午前二時ニ結了ス、是ニテ焚口煉瓦積全部

結了ス、

一、本日修築科ヨリ転勤スヘキ十四名ノ内、石田外十名安母尼亞工場付ニ決定セリ、

一、本日第一・第二ノ炉裏開キ戸ノ開閉工合ヲ試ミシニ、瓦斯竪支管ニ戸ノ下部ニアル楔受当リテ開キ方充分ナラサルヲ以テ、創立係ノ方ニテ手入スル事トナレリ、

十一月二十六日 昼曇

一、本日ヨリ第一・第二号トモ乾燥ニ着手ス、火ノ燃エ付充分ナラサル為メ、最初両口ヨリ焚キシモ、中途ヨリ第二号ハ南口、第一号ハ北口ノミニテ焚キ、第一ノ南炉頂風孔ニハセメン空樽三個ヲ積ミテ仮烟突トナシテ、一時ノ通氣ヲ計リシニ稍々良好結果ヲ見シ故、夜業モ引続キ同一方法ヲ採リタリ、
第二号ノ方ハ最初ノ結果良好ナラサリシ故一時中止シ、第一号ノ模様ニヨリテ再ヒ着手スル事トセリ、

十一月二十六日 夜時々雨

一、本夜ヨリ乾燥継続ノ為メ、倉田・田中両職工ヲ居残ラシム、

十一月廿七日 曇

一、第一ハ昨夜来引続キ乾燥セシニ、燃燒ノ工合充分ナラス、依リテ火床ヲ除キ、灰除煉瓦モ同時ニ取りテ再ヒ焚キ始ム、

一、第二ハ今朝再ヒ焚キ始メ、北口ノ方ヲ重ニ焚キ、充分通氣ノ道ヲ開キ南口ヨリ少シツ、焚キシニ、時々良不良ノ結果ヲ生シ、時ニハ焚口ヨリ煤烟噴出シテ薪ヲ入ルコト能ハサル事アリ、因リテ是レモ火床並ニ灰除ヲ取り外ツシテ焚キ、亦炉頂北側ノ風

道孔上ニ風除及セメン空樽ノ仮烟突ヲ設クル計画ヲナセリ、以上ノ如ク結果良好ナラス、且ツ操業上困難ヲ感スルヲ以テ、第一ノ北口ト第二ノ南口トヲ連絡セシムル為メ、「マンホール」煉瓦ノ一部ヲ壊チ、亦其ノ間ノ土ヲ掘り取りニ着手ス、

十一月廿七日夜 曇

- 一、本夜モ引続キ乾燥ニ従事セシニ、燃燒ノ工合稍々良好ナリ、
- 一、兩焚口連絡ノ残仕事ヲ、散炭職工ノ剩余人数六名ニ為サシム、
- 一、橋本為吉從來芳賀雇ノ方へ手伝ヒシニ、本日ヨリ乾燥ニ従事スル事トナレリ、

十一月廿八日 晴

- 一、前夜ニ引続キ乾燥セシニ、燃燒ノ結果稍良好ナリ、
- 風位ノ都合ニ依リ片干燥ニナルヤノ傾アリ、依リテ噴烟ノ部分ノミ炬ノ西方ヲ「シート」ヲ以テ覆フ、

十一月廿八日夜 曇 午前三時ヨリ雨

- 一、本夜干燥職工ハ、田中藤七及永谷浅吉ノ兩名ヲ以テ従事セシム、但シ、倉田豊吉欠勤セシニ拠ル、
- 一、本夜干燥ノ燃料ニ使用セシ薪ハ約八昇トス、但、一昇ハ約五拾

十一月廿九日 曇 時々小雨降ル

- 一、廿六日ヨリ廿八日昼迄運搬セシ薪四十昇トス、
- 一、本日ヨリ富永工手監督トシテ従事セラル、
- 一、運搬薪十八昇、秤量セシニ平均量ハ一昇四八匁アリタリ、
- 一、風位ノ都合ニヨリ片干燥ノ傾キアルモ、之ヲ矯正スル事ハ到底

至難ノ業ニ屬スルヲ以テ、本夜文ケ昼業ノマ、ニ継続シ、明昼業ヨリ風位ニ依リ片干燥ニナルモ、乾燥炬数ヲ漸次進ムル事ニ科長ヨリ命セラレタリ、

一、第三号ノ風道内水洩ヘヨナス、

十一月二十九日夜 晴

- 一、引続キ干燥中ニシテ異状ヲ認メズ、
- 但シ、炬ノ西方ニハ気孔ヨリ噴烟セス、風位ノ為ナラン、

拾壹月卅日 晴

- 一、本日第一号南風道及第式号北風道ヨリ干燥ヲ初ム、其経過ハ前日ト大差ナク、東側ノミ噴烟盛ナリ、西側ハ甚微ナリ、
- 干燥ニ使用セシ燃料式拾昇、
- 首藤幸太郎・原口義雄ノ兩名ニ夜勤ヲ命ス、但、本夜ハ居残り取扱トス、従前ノ干燥ハ好況ヲ呈ス、

十一月三十日夜 晴

- 一、第一号機ハ東方ハ拾炬迄、西方ハ七炬迄噴烟ヲ認メ、第二号機ハ東方拾壹炬迄、西方ハ四号炬迄噴烟スルヲ認ム、
- 其他異状ヲ認メズ、

拾貳月壹日 晴

- 一、第一号機ノ東側ハ拾壹炬迄、第貳号機ノ東側ハ拾式炬迄噴烟熾ナリ、西側ハ第壹・第貳号機共ニ前夜ト異ラズ、温度ト風位ノ為メニ蒸散ノ疎密ヲ現ス、干燥ノ経過ハ漸次良好ニ赴ク、
- 本日使用セシ薪ハ、昨夜ヨリノ分ト合計ノ上明日記帳ス、
- 松島技手本日欠勤セラル、

午後六時半頃ヨリ西側気孔ノ噴烟活気ヲ呈セリ、

拾貳月壹日夜 晴 西輕風

一、本夜乾燥者、首藤幸太郎・原口義雄・倉田豊吉・田中藤七

一、乾燥ノ度稍々進行ヲ認ム、然レ共風位ノ為メカ東西側ノ均温ヲ得ズ、東側ノ西側ニ優リ数炉ヲ進ムガ如シ、

本夜乾燥者ヲシテ燃料薪ノ運搬ヲ為サシム、其數量拾昇、

拾貳月貳日昼 晴

一、乾燥ノ温度漸進ス、基ヨリ東西側均温ヲ得ザルモ、本夜ハ昼業

ノマ、継続スル方得策ナラン、

炉數ヲ進ムルヲ中止シ、現状ヲ暫時維持スル様科長ヨリ命セラレタリ、乾燥ノ経過ハ稍々良好ナリ、卅日昼ヨリ本日迄燃燒用薪ハ約百拾昇トス、

十二月二日夜 晴 東微風

一、本夜乾燥者

石田長太郎・坂本政一郎・橋本為吉

昼間ノ操業ニ引続キ加温ニ力メシムノミ、他ニ異様、状況ヲ認メズ、

拾貳月三日昼 晴 無風

一、引続キ乾燥中、東西側漸ク同炉數ニ近ケリ故ニ、現在ノ状態継続スル方良好ナラン、

第壹号機口北方風道及第貳号機口南方風道際ヨリ亀裂ヲ生シ、漸次広大ニ進ムノ兆アリ、故ニ成ル可ク奥深ク薪ヲ装入スル様注意アリタシ、元ヨリ薪ノ装入一時ニ多量ニスルハ慎ム可キコト

ト信ス、本日運搬セシ薪ハ壹噸貳百五拾砵ナリ、
炉ノ付金物ナットヲ悉ク整調セリ、

自今薪ノ數量ノミヲ記載スル様、科長ヨリ命ゼラレタリ、

十二月三日夜 晴 無風

一、乾燥者

石田長太郎・坂本政一郎・橋本為吉

昼間ニ引続キ加温ニ力ム、

炉ノ景況昼間ト粗ホ同一ニシテ特徴ヲ認メズ、

拾貳月四日昼 晴

炉ノ景況ハ前日ト大差ナシ、

運搬セシ薪ハ壹噸四百五拾砵、

本日羽口管下部「キャポウ」中ノ溜水ヲ排出ス、

松薪壹台到着、此數量九噸九百八拾砵、

第壹号炉南北風道口及第貳号炉南北風道口ハ鉄板ヲ以テ蔽ヒタリ、

十二月四日夜 晴 無風

一、給温ノ景況概ネ良シ、

五日午前四時三十分ヨリ乾燥ヲ中止ス、但シ、焚口ハ仮リニ煉瓦積ヲ為シ温度ノ激降ヲ妨グ、

拾貳月五日昼 晴

第壹号煙突及第貳号煙突下ノ排水ニ従事ス、第壹号炉及第貳号炉ハ、各々風道ノ中間ニ煉瓦積ヲナサシム、

但シ、第壹号炉ハ南方ヨリ拾貳号炉迄、第貳号炉ハ北方ヨリ拾貳

炉迄ヲ境界トス、

午后五時頃ヨリ、第壹・第貳号炉ノ北・南ノ各口ヨリ焚火ヲ初ム、

本日第貳号炉ノ如キハ風道内ニ壹寸余ノ溜水認メタルヲ以テ排出セリ、

拾貳月五日夜 晴

乾燥ノ工合ハ甚ダ好シ、サレド西側ハ微々トシテ蒸散少ナシ、本夜生松薪ヲ秤量セシニ、平均六拾四匁アリタリ(65 67 60)、西微風徐々ニ来リ、為メニ焚口ニ困難ヲ生ス故、各々壹箇ニテ蒸散ニ力メシム(第壹号炉南西側、及第貳号炉北口側トス)、

「シート」ヲ以テ蔽フ可キ必要アリ、

運搬セシ薪ノ数量ハ(古薪八百匁、新薪四百四拾八匁)、

但シ、乾キタル薪三昇ニ対シテ生松薪壹昇ノ割合ヲ以テ運バシム、

年月日	運搬量			到着卸済分				備考
	薪	石炭	粉炭	薪	炭	粉炭	備考	
M 40年1月14日	2t 475kg	660 kg	250kg		15t 100 kg		高島炭3台	S式裏ノ箱番出来。
15	2,475	660	200			10t 920 kg		第1 S式炉ノ7・8・9ノ3 炉乾燥不充分ト認ム。
16	2,475	720	200					「ブラットホーム」ニ「チャンネル」取付。第1 S式炉ハ中ノ12 炉ノ乾燥ヲ初ム。
17	6,300	720	150		9,260		瓦斯発生炉用	瓦斯発生炉用炭ノ撰別。
18	4,550	550	100	38t 370 kg	21,940		〃	〃
19	1,540	550	150					〃 第1 S式炉ノ中1 2 炉西側「シパー」開キアルヲ検スル。
20	2,590	400	150					〃 (降雨ノタメ中止)、押出機線路枕口ノ下部ニ「コンクリー」ヲ摺入ス。
21	2,660	500	150					〃 第1 号機炉内ニ徐々炎氣ヲ導ク。第2 号機ハ8~1 9 号炉ハ第1 号機ノ通り、他ハ一時ノ通炎ヲ絶ツ。
22	4,480	500	150	21,850				〃 炉台ボートノ楔木ヲ取替。押出機線路ノ下部ニコンクリーノ摺込ヲ了ル。
23	6,650	500	250					〃 炉前ノ溝鉄板ヲ敷設。
24	4,700	600	150					〃
25	4,150	600	600			100		〃 嘱託技師下村氏S式炉現場ニ来ル。三好科長本日出勤。
26 昼	4,500	600		53,180				午後2時ヨリ第1 S式炉内ノ乾燥ヲ初ム。風道ハ乾燥ヲ中止。発生炉用炭ノ撰別ハ終了。
〃夜	7,000							職工3名「コッパー」炉操業ニ転ゼシム。
27 昼	1,000	600		35,940				第1 炉々内ニ薪ヲ焚ク。第2 S式炉ハ中1 2 炉ノ乾燥ヲ中止、南北炉ノ乾燥ヲ初ム。
〃夜	5,000							

年月日	運搬量						到着卸済分	備考
	第1 S式炉			第2 S式炉		第3 S式炉		
	炉内乾燥用	薪	石炭	薪	石炭	薪		
M 40年 1月27日 昼	6 t 250 kg			1 t	600 kg		35 t 940 kg	
〃夜	5,000							
28 昼	5,000			1,250	720			第1 烟突ヨリ水蒸気盛シニ噴出スル。各瓦斯羽口管プラグヨリ滴ル水量モ著シ。
〃夜	7,000			1,260				
29 昼	7,500			1,450	660		4,550	第2 S式炉大烟道ハ最モ乾燥ニ努力。
〃夜								
30 昼		2 t 250 kg	2 t 520 kg	1,250	780			第1 S式炉石炭ノ乾燥ヲ初ム。
〃夜			1,440					第1 S式炉ノ如キハ西風強カリシ為メ午後9 時頃迄殆ト操業出来ズ。予防策トシテ「シート」ヲ張ル。
31 昼		2,800	4,100					
〃夜			1,860			1 t		第3 号炉風道内乾燥ヲ初ム。

年月日	燃料用運搬量		乾燥用運搬量		到着卸済分		備考
	薪	石炭	薪	石炭	薪	石炭	
M 40年 2月1日 昼	1 t 680 kg	3 t 750 kg					第1 号機西側炉蓋ノ下部ニ悉皆煉瓦積ヲ為シ燃焼ノ良法ヲ採ル。
〃夜	1,000	1,560					
2 昼	8,680	2,170					
〃夜	0	2,020		17 t 400 kg			
3 昼	5,390	7,350					
〃夜	1,550	4,200					
4 昼	3,500	4,450					炉台ボートヲ緩ム。第1 号機東側焚口ヲ総テ煉瓦積トス。
〃夜	1,650	4,800					第2 S式炉内ノ乾燥ハ火ノ絶エザル程度。
5 昼	4,500	110					第2 号機ノ炉内乾燥ヲ初ム。
〃夜	2,350	2,220					
6	5,400	3,400	3 t 450 kg	200		15 t 240 kg	
7 昼	2,250	3,800				15,240	第3 S式炉西側ニ「シート」ヲ張ル。
〃夜	3,150	4,000			31 t 470 kg		
8 昼	③1,300	①5,400 ②5,400				17,400	押出機ノ試運転。第2 S式炉内ニ石炭ヲ焚キ初ム。
〃夜	11,200	600					
9 昼	401 魯	9,000					発生炉上ニ粉炭置場ヲ造ル。粉炭乾燥。第1・2 エキゾスターノ試運転。
〃夜	980	8,000					第2 S式炉焚口ニ煉瓦積。
10 昼	1,000	14,400					アーク燈ヲ本夜ヨリ点ズ。
〃夜		4,250					エキゾスター連日試運転。炭ヲ懐カシム。(発生炉用)

①は第1号炉、②は第2号炉、③は第3号炉

年月日	運 搬 量			備 考
	古 薪	新 薪	石 炭	
M39年12月5日	800 kg	448 kg		第1・2号煙突下ノ排水、北・南ノ各口ヨリ焚火ヲ初ム。西側ハ蒸散少シ。
6 昼	1,408	640		煙道乾燥ノ準備。西微風ノ為メニ焚口ニ困難ヲ生ス。運搬薪ハ乾キタル薪3昇ニ対シテ生松薪1昇ノ割合。
〃夜	1,712			第1・2号炉共ニ炉数ヲ増加。乾燥ノ結果ハ良好。
7 昼	2,624	704		
〃夜	650	448		本日ヨリ5ヶ所ヨリ乾燥。
8 昼	3,264	640		
〃夜	2,650	640		風強カリシタメ操業上困難。
9	30,820	5,980		炉上煉瓦ニ多少亀裂ヲ生ズ。第1 S式炉雨水ノ流下基ダシク操業ニ困難。
10 昼	2,070	576		
〃夜	6,000	4,596		
11	3,584	1,792	340 kg	1号機ノ25号炉・2号機ノ1号炉縦亀裂ヲ生セリ。
12 昼	2,162	1,840	420	2号炉、石炭ノ混焚ヲ始ム。
〃夜	920	1,280	300	
13 昼	2,000	2,000	300	
〃夜			360	乾燥ノ景況ハ逐日良好。
14 昼	2,100	2,689	300	第1 S式第1・25号炉、第2 S式第1・25号炉ノ亀裂。(如何ニ乾燥ノ度ノ進シカ推測スルニ足ル)
〃夜			240	
15 昼	2,560	2,560	550	職工(乙組)検査56名。第1 S式炉「セル」没落直チニ修繕。
〃夜			180	
16 昼	2,000	2,560	600	第1 S式第8~17号炉、第2 S式第9~18号炉、大煉瓦ノ乾燥ヲ初ム。
〃夜			300	
17 昼	2,250	2,880	600	職工(甲組)検査26名。
〃夜			240	
18 昼			540	「エヤーボックス」ノ「シパー」、「アッセンションパイプ」点検。
〃夜			300	
19			840	

年月日	運 搬 量				備 考
	薪	石 炭	粉 骸 炭	乾燥用炭	
M39年12月20日	6 t580 kg	660 kg			炉底「ダンパー」従前ノ1/2ニ閉縮。
21	840	600			第2号炉小蓋、東側ハ蒸気放散ノ為メ悉皆取除ク。2号機「ダンパー」ヲ悉ク開カシム。
22	5,390	780			蒸溜ヲ防クカ為メ羽口管「キャップ」ヲ取外ス。第1・2 S式炉ノ大煙道マンホール乾燥中止。
23	8,050				水道部ヨリ噴水ノ可否ヲ試ム。「ウインチ」2台ヲ炉上ニ運ブ。第1号機「シーソー」左右ニ6炉宛
24	0				炉台「ボート」ノ台付ケ。 <u>開ク。</u>
25 昼	5,600				
〃夜	1,750				第2 S式炉、骸炭ヲ試燃。唯「アス」ノ排除ニ困難スルヲ以テ若シ骸炭ヲ用ユルトセバ「ロストル」ノ <u>必要アリ。</u>
26	4,900				第2号機ノ骸炭焚焼結果、稍良好。「ビーハイブ」ノ補充職工2名、「ホルデー」ノ補充職工1名。
27	2,450				第1 S式炉、骸炭ノ試燃、粗ホ宜シキヲ認ム。但シ燃法ハ七分ハ薪ヲ用イ火気曳延ノ法ヲ取ル。
28	3,080				第2号炉、1~6号ノ「タンパー」閉鎖。
29 昼	3,000				第2号 S式炉「シパー」閉鎖。本日ハ薪ノ焚キニ重キヲ置キ粉骸ハ少量用ユルノミ。
〃夜	2,800				大煙道マンホールノ乾燥。
30 昼	2,145	600			
〃夜	1,050				
31 昼	1,375	300			第1・2 S式共「ウインチ」掘付工事了ル。第1 S式第12炉「シパー」ヲ閉チ、余炉ノ東側「シパー」 <u>ヲ開ク</u>
〃夜	1,625				
M40年1月1日	1,925	730			第1 S式炉ノ南方焚石薪ヲ少量、北方焚口ハ粉骸ノミ焚カシム。
2	2,200	540			第1・2 S式炉共炉ノ付金物ヲ付。第1・2 S式炉中間ニ「シート」ヲ張ル。
3	1,750	350	200 kg		第1号乾燥ハ1~6号、19~25号。第2号乾燥ハ南6炉・北7炉ヲ除中央乾燥。
4	4,201	600	250		
〃			200	25 t940 kg	
5	2,700	500			
〃			100		午後4時ヨリ第2号機ノ南焚口ハ粉骸炭ヲ廃シ薪而已ヲ焚ク。
6	2,700	500			
〃			100		
7	2,400	500	100		
8	2,820	800			
9	2,700	500			「ウキンチ」ノ「ハンドル」2箇新調ヲ請求。夜間ニ燃料運搬ヲ始メ総テノ操業ヲ行ハズ唯々 <u>専心乾燥ニ従事。</u>
10	2,475	600	300		
(11)	2,475	660	100		
12	2,475	600	150		
13	2,250	500	150		